



報告

# 2011年度論文賞の 受賞論文紹介

## ● 選定にあたって ●

水野 忠則 論文賞委員会委員長／愛知工業大学情報科学部情報科学科

2011年度論文賞受賞論文の著者による各1ページの紹介記事を次ページ以降に掲載する。論文賞に選定される論文は、論文誌各誌に掲載された論文約50編に1編が目安となっており、当然のことながら高い質の研究成果が揃っている。また、各受賞論文からキーワードを1つだけ抜き出して並べると、「テレビ会議システム」、「デッドレコニング」、「市場設計理論」、「大規模言語資源」、「情報セキュリティ」、「木構造処理」、「ソフトウェアデバッグ」となり、これを見るだけで情報処理学会が対象とする研究分野の広さが分かるとともに、新しい時代の到来を感じることができよう。次ページ以降の7ページを一読いただければ、情報処理にかかわる先端領域の動きの一端に触れることができるとともに、陽には記載されていない著者の想いや苦勞も汲み取れる。

受賞論文の選定過程について以下に報告する。情報処理学会論文誌（論文誌 ジャーナル, Journal of Information Processing, 論文誌 トランザクションの全誌（7誌））に掲載された論文に対して、学会論文誌運営委員会委員長（副会長）が委員長を兼ねた論文賞委員会が、ワーキンググループを論文誌ごとに組織し、優秀な論文を選定する体制となっている。論文賞の名称も次の通り掲載誌ごとに異なる。

- ジャーナル「情報処理学会論文賞」
- JIP「Journal of Information Processing Outstanding Paper Award」
- トランザクション「情報処理学会論文誌〈誌名〉

優秀論文賞」,「IPSJ Transactions on〈誌名〉 Outstanding Paper Award」

2011年度論文賞の対象となったものは、論文誌 ジャーナル, Journal of Information Processing, 論文誌 トランザクション7誌（論文誌 プログラミング, 論文誌 数理モデル化と応用, 論文誌 データベース, 論文誌 コンピューティングシステム, Transactions on Bioinformatics, Transactions on System LSI Design Methodology, Transactions on Computer Vision and Applications）に掲載された計486編の論文である。これらの中で、実際に選定を行ったのは論文誌 ジャーナル, Journal of Information Processing, 論文誌 プログラミングの3誌であり、これらに掲載された322編の論文が実質的な選定対象となった。選定にあたっては、表彰規程および論文賞受賞候補者選定手続に基づき、論文賞委員会による厳正な審査が行われた。その結果、7編の受賞候補論文が選定され、理事会の承認を得て受賞が決定した。残りの6誌については、対象論文が50編に満たなかったため、表彰規程第11条に基づき、2011年度の対象論文を2012年度以降の論文賞の対象論文として持ち越すこととなった。なお、受賞論文の著者には、2012年度定時総会において表彰状、賞牌および賞金が授与された。

(2012年6月14日)